

# 名古屋工業大学男女共同参画推進センター ニュースレター

Vol.8  
2017.03

## CONTENTS

### 1.TOPICS

名古屋工業大学卒業生有志がOG同窓会「鶴桜会」を創設しました  
第4回女性研究者・技術者の会のランチミーティングを開催しました  
科学英語論文セミナーを行いました

最終報告シンポジウムを開催しました  
第3回育児セミナーを開催しました

### 2.INTERVIEW

名古屋工業大学 監事 二村友佳子氏

### 3.COLUMN

連載第2回「加藤正史先生のワーク・ライフ・アンバランス」

## TOPIC 01 名古屋工業大学卒業生有志がOG会「鶴桜会」を創設しました

名古屋工業大学では、創立111周年を迎えて初めて、卒業生の有志によるOG会を設立しました。平成28年11月3日に大会会館生協カフェテリアで開催した設立総会兼懇親会にはOGや現役女子学生、計約50名が参加しました。

はじめに、男女共同参画推進センター長の藤岡教授より、OG会は、「年に1回会いましょう」を合言葉に、OGや現役女子学生が交流し、縦と横のつながりを持てる場として創設に協力した旨の説明がありました。続いて鶴飼学長やOG会を支援する一般社団法人名古屋工業会（全学同窓会）の水谷理事、内藤常務理事より挨拶があり、歓談が進みました。続く設立総会では、役員・会則等が承認された後、参加者による投票が行われ、名称を鶴舞の地に咲き誇る桜のような女性をイメージした「鶴桜（かくおう）会」と決定しました。引き続き、OG全員の1分間スピーチが披露されるなど、参加者同士の親睦が進みました。最後に藤岡教授からOG人材バンクの紹介と、その輪を、それぞれが持つネットワークを通じて大きく広げてほしいとの挨拶で、1時間半にわたった会が盛況のうちに終了しました。



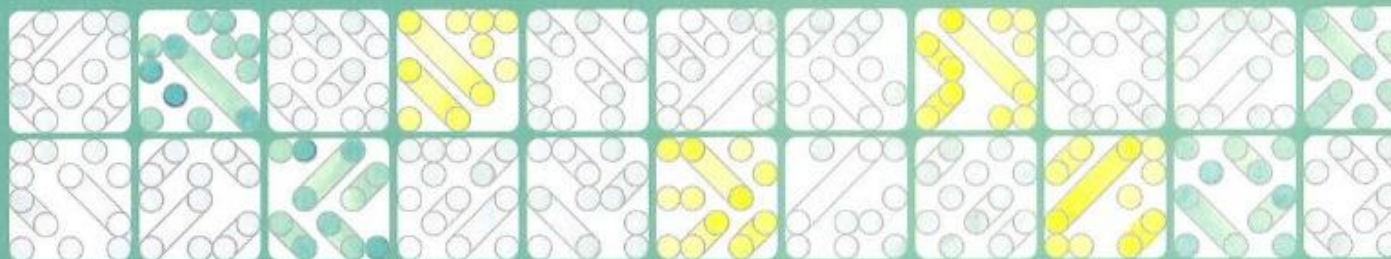
## TOPIC 02 最終報告シンポジウムを開催しました

平成28年11月9日、女性研究者研究活動支援事業（一般型）の最終報告シンポジウムを開催し、教職員、学生を始め、学内外から約120名が参加しました。

シンポジウムは、男女共同参画推進センター長 藤岡伸子教授の司会進行のもと、鶴飼裕之学長の挨拶で開会しました。はじめに、文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課人材政策推進室長 唐沢裕之氏より来賓挨拶があり、文部科学省女性活躍推進関係の施策の説明と名工大の取り組みへの期待が述べられました。次いで、岐阜大学副学長の林正子教授から、外部評価委員会委員長として、女性研究者支援に関する名工大学長のリーダーシップへの高い評価が述べられた他、「女性研究者の活躍による岐阜創生をめざして～岐阜大学による連携事業～」と題して岐阜大学の取り組みと現状について講演いただきました。次に、男女共同参画推進事業進捗報告として、乙部由子統括コーディネーターがこれまでの事業についての最終報告をしました。次いで、女性研究者からの報告として「女性が拓く工学の未来賞」を昨年受賞した吉田奈央子准教授とOG人材バンクによる研究支援員を利用している武藤敦子准教授から、研究成果の報告等をお話いただきました。続いて、国立研究開発法人科学技術振興機構プログラム主幹 山村康子氏から「女性研究者支援、課題と継続について～名古屋工業大学への期待～」という演題で総括講演をしていただきました。特に工科系単科大学である名工大への強い期待が述べられ、会場からは熱心な質疑がありました。最後に、内匠逸理事による閉会の挨拶では、講演者、来場者への謝辞と次年度以降の取り組みへの決意が述べられました。







## TOPIC 03

### 第4回女性研究者・技術者の会のランチミーティングを開催しました

平成28年11月15日、名古屋工業大学男女共同参画推進センター3階のi-cafeにて、4回目のランチミーティングが開催されました。

初めに藤岡伸子センター長が開会の挨拶をされ、会員の孫晶助教が「経営工学への取組—生産・調達・マーケティング」とした研究の紹介、藤原郁子URAがご自身の業務と研究について紹介をされました。その後、テーブルで会食を楽しみながら、それぞれの話(OG、家族のことなど)に花を咲かせ、招待者として参加した鶏飼裕之学長と内匠逸理事が、女性研究者・技術者の方たちと懇談されました。次回は、今年度最後の回として3月頃に行われることを約束し、閉会しました。



## TOPIC 04

### 科学英語論文セミナーを行いました

平成28年11月18日と平成29年1月13日に、小野義正先生(理化学研究所客員主管研究員)による『「ポイントで学ぶ」科学英語論文の書き方』と題して科学英語論文書き方セミナーを開催しました。ともに約20名の参加者でした。

11月の講義において、第1講義では「英語論文を書く意義」と「英語の発想法と論文執筆の鉄則」、第2講義では「英語論文の書き方」という二部構成で行いました。研究の本質的・最終目的である「公表」のため、英語による論文の執筆は不可欠であり、上手に英語論文を書くには練習によりスキルを磨かなければならないこと等について講義していただきました。

1月の講義において、第1講義の「明確な英語論文を書くテクニック(作文技術)」では、論文の書き方や数字表記のつけ方などを説明されました。第2講義の「英文を書くときに心得ておくべき文法的事項」では、時制・前置詞の説明、冠詞の使い方等について講義していただきました。具体例も多く、とても実用性の高い内容でした。



## TOPIC 05

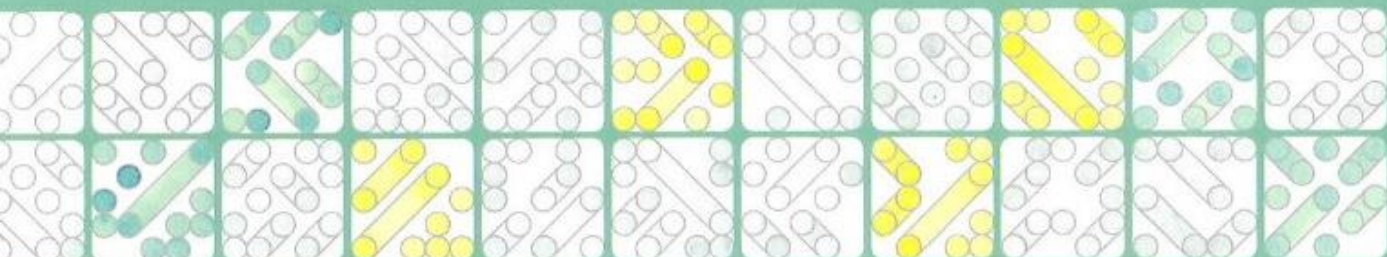
### 第3回出産・育児支援セミナーを開催しました

平成29年1月25日にi-cafeにて、第3回目の出産・育児支援セミナーを開催しました。計14名(男性5名、女性9名)の参加がありました。

男女共同参画推進センター長藤岡伸子教授の挨拶では、自身も子どもを育てながら研究を続ける上で直面した困難、そして終わってしまえば良い経験だと思っているというお話がありました。続いて、菊池ワークライフバランス相談員より、学内外の支援制度の説明がありました。最後に、けやきの木保育園、平松知子園長より「保育園ってどんなところ?」と題して、保育士の専門性、集団保育の持つ強み等についてお話をいただきました。今回は、子育て中の教員、研究員、各種制度利用中の事務職員、技術職員等の参加があり、様々な方の交流の場となりました。







# INTERVIEW

名古屋工業大学 監事 二村友佳子氏

モットーは

「明るく、元気に、さわやかに」

ワーク・ライフ・バランスについて伺います。

人は、勉強も大事、仕事も大事ですが、チャンスがあれば、家庭も子どもももった人生を歩んでほしいです。研究もして、仕事もして、友達とも遊び、家族との時間も持ってもらいたいです。仕事を続けるという点でいえば、女性にとって最大のネックは、「子ども」の存在だと思うのです。「結婚」自体、それほど自分の生活に負荷はかかりませんが、出産・子育てとなると、やはり大変な負荷がかかりますので、その負荷をかけてまでも子どもを持ちたいと思えるのかどうか。それは、個々人の選択の問題です。子どもは持たないという選択をする女性の気持ちは、わからなくもないですね。働きながらの生活バランスは、結局、自分で決めていくのだと思います。決断も結果も納得しながら決めていくしかないと思います。

では、具体的に、ワーク・ライフ・バランスにおいて何が大切でしょうか。

私は、気持ちがリフレッシュできることが、大切だと思います。毎日仕事は、楽しいことばかりではありません。疲れた時や嫌なことがあった時、家に帰れば、子どもが私に向かって屈託のない笑顔でいろいろなことを話してくれます。そうすると「まあいいか。明日から、気持ちを切り替えて頑張ろう」という気持ちになることができます。気持ちがリセットされ、自分が楽になります。

えらそうなことは言えないのですが、仕事を続けていくのは、とても大変だと思います。わからなくて行き詰まることもあります。恥をかくこともあります。色々なことを言われて、傷つくこともあります。でも、そういった気持ちを何とか盛り返して、また明日から仕事をしなければならぬのです。そのためには、心身のバランスをとりながら毎



日を送らなければなりません。心も体も大切に、気持ちはとくに大事で、どういった形で自分自身のリフレッシュを図るかを、自分で見つけ出さなければならないですよ。

心身共に健康でいるのは、仕事の活力の源にもなります。心身共に健康でいるためにはどうしたらよいか、ということになると仕事や勉強ももちろん大事ですが、やはり家族とのなにげないやりとりや、好きな旅行をすることで、心身をリフレッシュすることも同じくらい大切だと思うのです。何事もメリハリをつけて、ON、OFFを大切にしていくことが必要だと思います。自分の好きなことをする時間は大切です。

最後に、名工大への期待など伺います。

名工大で、いろいろな会議に出席させていただいて、驚いたのは、男性の先生はみなさん、とても温厚な優しい先生ばかりだということです。おそらく、学生さんに対して、同じように優しく接するのだろうなと思います。そんな先生方に教えられた学生が、中部の企業を支えていくのですから、企業発展の原点を見るようです。

また、そういった男性の先生が多いなか、会議には女性の先生がいないと思いました。会議に出席するような役職クラスに、女性の先生がいてもおかしくないと思います。これからの時代、女性の視点もまた必要かと思います。男性だから女性だからということはありませんが、女性だから気が付く部分もあるのではないかと思います。

名工大への期待としては、これからも社会の発展のための人材育成に努めてほしいということと、役職につく先生のなかに1人でも2人でも女性の先生が入り、女性の活躍の場を広げていてもらいたいですね。

ありがとうございました。





加藤 正史

1998年 名古屋工業大学卒

2003年 同大学大学院修了 博士(工学)

2003年 名古屋工業大学 助手

2008年～現在 名古屋工業大学 准教授

(その間リトアニア国ビリュクス大研究員、  
名古屋大学客員准教授 兼任)

## 第2回 研究者と子育ての両立：出張について

### 両立で難しい点

研究者と子育ての両立をする上で、最も困難な事は何でしょうか？世話が必要な家族が居ることで、生まれる手間は保育所の手配、送り迎え、自宅での世話、病気の対応…などです。これらの事項とも関わる事ですが、個人的に最も悩ましいのは出張だと感じています。(なお、ワークライフバランスの内容には介護も含まれますが、筆者の技量の問題と議論の発散を防ぐために、この連載では特に断りのない限り、介護の話は抜いて子育ての話に限定したいと思います。)

### なぜ出張が悩ましいか

保育所の手配は、住んでいる地域、子供の生年月日(例えば3月生まれの子供は入所がしづらい)、家庭環境にも依りますが(大変な家庭ほど入れやすい、一時的なものです。送り迎えも慣れてしまえば、何とかできます(何とかせざるを得ないのですが)。また、自宅での家族の世話で仕事時間が減ることについては、仕事の取捨選択や他人をうまく頼って、自らのリソースの範囲内で最大の質を保つ努力をすれば、ある程度対応できます(程度問題にはなりません)。突然の病気は、対応は難しいですが、病児保育などの仕組みが(一応は)あります(病児保育については、回を改めて議論したいと思います)。

一方、宿泊が伴う出張は完全に家族と離れるため、誰かの手を借りる必要があります。信頼できる家族や友人が近くにいればそれは可能ですが、それができない場合、出張に連れて行かざるを得ません。最近では学会でも託児サービスを提供している場合があり、子連れの学会参加は不可能ではありません。海外出張で現地のベビーシッターを雇うという選択肢もあるらしく(筆者は利用したことはありませんが)、タフな研究者は利用しているようです。しかしながら、子連れの出張はやはり大変です(筆者の経験は[1])。もし2人以上の幼児を1人で連れていくという状況になったら、筆者なら出張を諦めると思います。幼児でなければある程度楽になりますが、旅費が人数分必要となります。



### 出張は可能な限りするべき

上記のような困難な点があるものの学会参加は、研究者として自らの研究成果をアピールすることのみならず、他の研究者の仕事も勉強可能な類稀な機会です。また、何らかの委員などの仕事も研究者としての知識を社会に還元する貴重な機会ですが、この仕事では会議出席を求められます。つまり、出張と研究活動は切り離せないものです。研究者としての成果と、学会参加の間には、統計的に相関があるという報告もあります[2]。最近では、子連れでの出張に対して、旅費の補助を実施している大学・機関もありますし、子育て中の研究者の皆様も可能な限り出張をするべきだと、私は考えます。

[1] 『応物講演会で託児室を使ってみた』 加藤正史 [http://ik-lab.web.nitech.ac.jp/mkato/conf\\_childcare.html](http://ik-lab.web.nitech.ac.jp/mkato/conf_childcare.html)

[2] 『研究履歴・環境と研究パフォーマンスの関係 一国研研究者を対象として』 大熊和彦、平澤 冷、研究・技術計画学会 第13回年次学術大会講演要旨集 p.20 [http://www.jaist.ac.jp/coe/library/jssprm\\_p/1998/pdf/1998-1A2.pdf](http://www.jaist.ac.jp/coe/library/jssprm_p/1998/pdf/1998-1A2.pdf)

## 彩綾～SAYA～の活動 女性技術者交流会(日本女性技術者フォーラム共催)1/20(金)

全学年、全学科の名工大女子学生を対象にして、毎年恒例の女性技術者との交流会を行いました。今回は初めて、日本女性技術者フォーラム(JWETF)との共催も実現しました。当日は5社の企業様と80名強の名工大女子学生が参加しました。この交流会は、女性技術者(働く女性)と話すことで、自分の将来を考えるきっかけを作ることが目的です。座談会では10名程度のグループに分かれ、近い距離で企業の方とざっくばらんに質問を交わしました。多くの質問を通して、現在、女性技術者として活躍されている方がどのような人であり、またどういった働き方をされているのかを知ることができました。学生のうちに、女性技術者の現状を知るよい機会となりました。



**発行** 名古屋工業大学男女共同参画推進センター

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 TEL | 052-735-5121

URL | <http://www.nitech.ac.jp/gender/> E-MAIL | [danjokiyodo@adm.nitech.ac.jp](mailto:danjokiyodo@adm.nitech.ac.jp)

**デザイン** 大久保侑哉(藤岡研究室 M1)

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(一般型)」